



同じ和菓子でも春には“牡丹餅”と呼び、秋には“お萩”と言うのは日本人らしい命名かもしれません。豊かな季節の繊細な変化を大切にしてきたからでしょう。

平安～江戸期の複合遺跡

大道遺跡発掘調査現地説明会

市内北西部の大道遺跡は平成9年度(1997年度)に試掘調査を行い、平成13年度(2001年度)から遺跡内を何度かに分けて発掘調査をしてきました。この程その最終段階に至り、8月21日(木)に現地説明会を催しました。その様子をご紹介します。

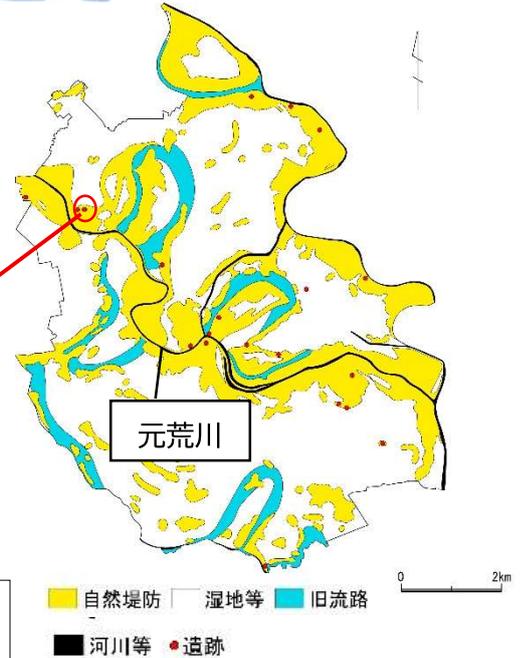
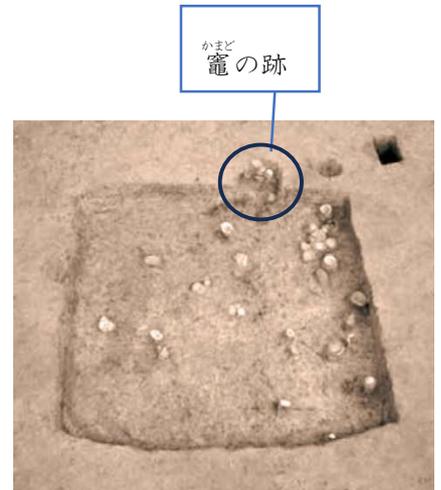
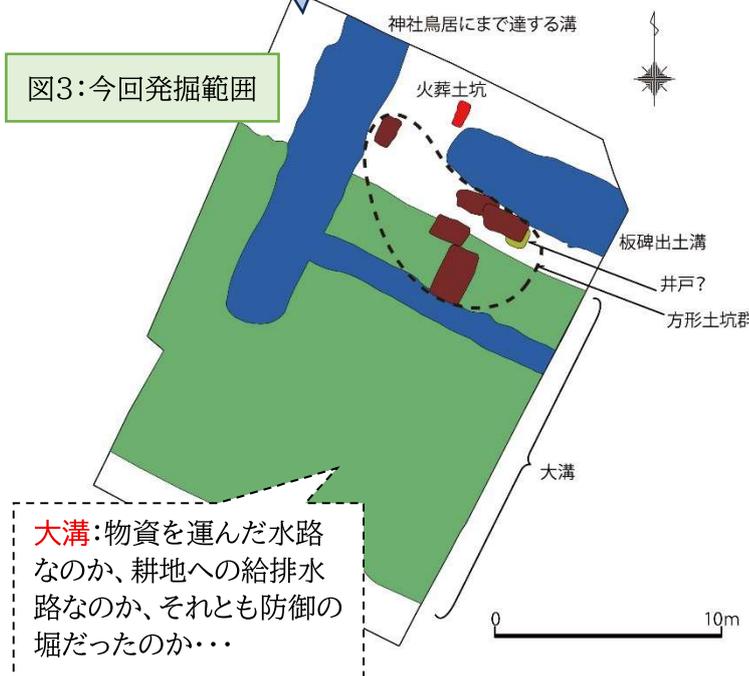
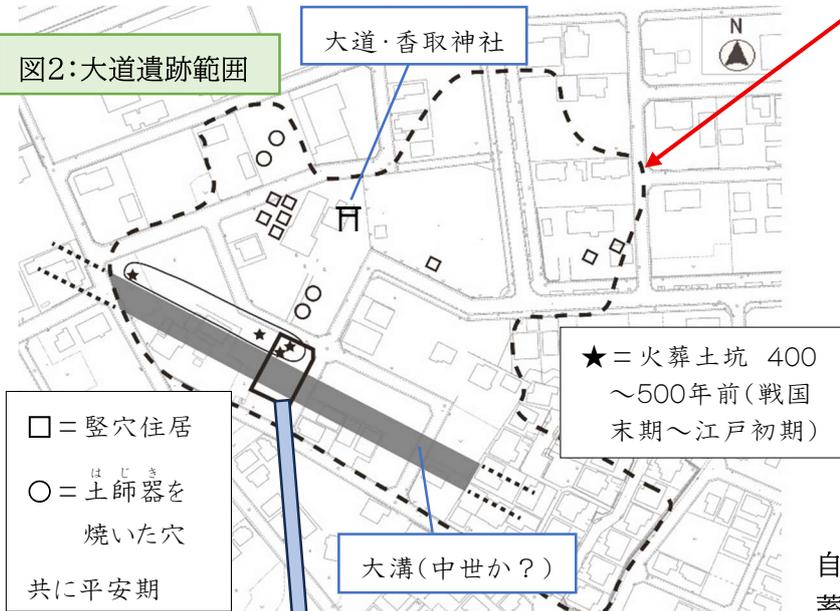


図1: 市域の地形

図1からわかるように、市域の遺跡は自然堤防(度重なる洪水によって土砂が蓄積された微高地)の上にあることが多く、大道遺跡も自然堤防上に立地する平安時代～江戸時代に営まれた生活の跡です。過去の発掘で大道香取神社周辺からは、平安時代の竪穴住居跡が検出されました。(下の画像 平成13年発掘)



大道・香取神社



現地説明会当日は朝から猛暑でしたが、3回の会で合わせて70名余りの方が参加されました。

遺構(建物や井戸、土坑、溝などの跡)はどのようにして検出(その場所の特定)されるのか、その作業を説明しているのが下の写真の場面です。

「地面の色の違いに注意して、薄く削るように掘ります。」



遺跡発見のきっかけ、遺構や遺物の年代判別、発掘過程、なぜ発掘するのか・・・などについては、「古民家だより」No.44をご覧ください。(越谷市HPで閲覧いただけます。)

新規指定文化財

興味深く観ていただきました

新規指定された文化財の現物の内、4点が先日3カ所で展示されました。この内3点はレイクタウンと大間野の中村家住宅でしたが、来館された方々の言葉を紹介します。

【旧東方村中村家家譜】(於:旧東方村中村家住宅)

この家譜は長い卷子なので、当住宅が建築された頃の状況を記した部分を開いて展示されました。

- ◆紙が綺麗で文字も鮮明。どんな状態で保存されたのか。
- ◆古文書が残っているのはさぞや立派な家系なのだろう。

江戸時代には名主を務めた家でした。

【青い目の人形】(於:大間野町旧中村家住宅)

- ◆自分も母も大沢小学校卒業。母は見られなかったけれど。

木造校舎改築の際に発見された約100年前の人形です。

【越ヶ谷小学校 校務日誌】(於:大間野町旧中村家住宅)

- ◆父が戦前に在学していたようなので、関心があった。

学校を通して終戦前後の町や人々の様子が浮き彫りにされる史料です。

展示『柿の渋』開催のお知らせ

“渋”に因む言葉、「しぶしぶ」や「渋滞」などはマイナスのイメージがあります。他方、最近の日常生活では“渋”を認識することは少なくなりました。けれども“渋”は古来大切なところで使われてきました。“柿渋”の用途や現代的な意味を考えてみたいと思います。(Act Green ECO WEEK 2025 関連事業)

★10月4日(土)～11月3日(月・祝)(期間中、入館無料) ★旧東方村中村家住宅(レイクタウン9-51)